

新たな京都へ

京都府知事

西脇 隆俊



府民の皆さま、あけましておめでとうございます。ございます。

昨年4月、

府民の皆さまからのご信託を賜り、京都府開庁から150年目の年に、第51代京都府知事に就任させていただきました。西脇隆俊です。

知事就任にあたっては、「現場主義を徹底すること」「前例にとらわれないこと」「連携すること」を職員に指示し、6月には「将来に希望の持てる新しい京都づくり」に向け、「安心で暮らしやすい社会の構築」「京都産業の活力向上」「スポーツ・文化力による未来の京都づくり」を重視した肉付け予算を編成して、府政をスタートさせました。

しかし、その直後には、6月

の大阪府北部地震や7月の豪雨9月に入っの台風21号や24号、それに伴う強風被害や大雨など、次々と自然災害が襲いかかりました。改めて、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りし、被害に遭われた皆さまにお見舞いを申し上げます。

京都府では、災害後、直ちに補正予算を計上し、復興、復旧に向けた対策を講じるとともに、府民の皆さまの安心・安全を守るため、災害対応の検証を行い、先進的な防災・減災対策や治水対策、危機管理体制の強化充実など、地域防災計画の見直しを進めているところです。

一方で、昨年は、2020年のNHK大河ドラマが、京都ゆかりの明智光秀を主人公とした「麒麟がくる」に決定したことや、京都大学の本庶佑特別教授がノーベル生理学・医学賞を受賞されるなど、歴史や文化、学術のまち京都にとって、大変喜ばしい出来事も多くありました。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催や、2021年度中とされる文

化庁の全面的な京都移転、そして2025年国際博覧会(万博)の大阪・関西での開催を控え、日本そして京都への世界からの注目度は、今後ますます高まります。このチャンス逃すことなく、本年9月に開催される国際博物館会議(ICOM)京都大会等においても、京都府内各地の多様な文化資源をアピールし、「日本の文化首都・京都」を世界中に発信してまいります。

今、国内外から多くの観光客が京都を訪れています。2017年の観光入込客数は約8,700万人、外国人宿泊客数は約360万人、観光消費額も過去最高の約1兆1,900億円を記録しました。しかし、それらの多くは京都市内に集中しています。

京都縦貫自動車道の整備や新名神高速道路の新区間開通によって、南北のアクセスは格段に向上しました。鉄道やバスの利用も含め、海・森・お茶の京都、竹の里・乙訓といった「もうひとつの京都」への周遊を促すことが重要です。観光客の満足度の向上や観光地の広域連携等を

盛り込んだ「京都府観光総合戦略」を策定し、府内各地に効果が波及するよう取り組みを進めてまいります。

今年の3月には、「京都経済センター」がグランドオープンします。京都府・京都市・京都経済界が「京都経済百年の計」として力を結集し、京都経済の発展を支える拠点になるものです。このセンターを核に、オール京都体制で産学官の連携や人材育成、生産性の向上に一層取り組んでまいります。

こうした明るい未来に向かって、様々な取組を推進する一方で、私たちの足元には、乗り越えなければならぬ課題が山積みとなつていきます。日本は、少子化・高齢化がますます進展し、本格的な人口減少社会に突入することは避けられない状況です。

東京への一極集中も依然として続いており、地域コミュニティが弱体化する中、労働力不足も深刻です。

私は、そうした課題に臆することなく立ち向かい、全ての世代の皆さまが暮らしやすい社会

の実現を目指した「子育て環境日本一」の取組等を通して一つ一つの課題解決に努めてまいります。

さらに今年は、天皇陛下が4月30日に御退位され、皇太子殿下が5月1日に御即位されます。現在、策定を進めている京都府の将来構想及び基本計画となる「新総合計画」では、新しい時代に対応した「夢のある将来ビジョン」を掲げ、次代を担う子どもたちが希望を持てる未来へのロードマップを描いてまいります。

府民の皆さま、「新たな京都」に向けて共に歩みを進めてまいりますよう。

今年一年の皆さまのご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。



輝かしい時代の スタートを京都から

京都市長

門川 大作



あけまして
おめでとうございます。
ございます。

昨年は、地震や豪雨、度重なる台風等に見舞われ、自然の脅威を思い知らされる一年でした。京都市でも、長期の停電、家屋や文化財・公共施設、農林、道路などに大きな被害が発生。しかし、尊い命は守られました。これは、消防団や水防団、自主防災会等の皆様の御尽力があればこそ。御尽力いただいた全ての皆様に心から感謝申し上げます。これらの災害をしっかりと総括し、今後の安心安全のまちづくりへ教訓としてまいります。改めて京都の「地域力」「人間力」を目の当たりにし、困難を乗り越えて更なる発展を遂げる「レジリエント」なまち

の真髄を見出した思いです。これらの「京都力」を地域における子どもたちの学び、育ち、高齢者や障害のある方が生き生きと命を輝かせるまちづくりへ、共に生かしてまいります。

そして本年。京都のまちを更にパワーアップさせる機会が目白押しです。京都経済百年の計画「京都経済センター」の開設で、中小企業・地域企業を元気に！JR「梅小路京都西駅」の開業、日本初開催となる「国際博物館会議（ICOM）京都大会」、市美術館のリニューアルオープンも来年度中に。5年連続で保育所等待機児童ゼロを達成した子育て支援、指定都市トップとなった市立小学生の学力など成果を確認し、更なる充実へ。福祉・環境・景観・安心安全・伝統産業等の振興につながる観光・町家の保全・持続可能なまちづくりなど、引き続き市民の皆さんと共に汗する「共汗」で、全力投球してまいります。

ラグビーワールドカップ・東京オリ・パラ、そして2021

年には世界最大の生涯スポーツの祭典「ワールドマスターズゲームズ関西」、さらに機能強化した新・文化庁の京都への全面的移転が控えています。2025日本万国博覧会（大阪・関西）の開催も決定！これらを機に、文化の力を市民の皆さんの豊かさにつなげ、持続可能な社会を目指すSDGS（「誰一人取り残さない」を理念に国連が掲げる17の取組目標）の達成にも貢献していく決意です。

平成に続く新たな時代が幕を開ける本年。京都が世界の人々の幸せと平和に貢献すべく、共々に。皆様のこの一年の御多幸をお祈りします。

